

岸和田の子どもたちに確かな学力を！

平成28年度 岸和田市における全国学力・学習状況調査の結果について

学習指導要領では、「生きる力」の育成という理念が明確に示されています。そして、確かな学力・豊かな人間性・健やかな体をバランスよく育むことの重要性も強調されています。

また、国際的な学力調査をはじめとした学力状況調査の結果などから、保護者の皆様をはじめ、市民の方々の学力に対する関心がいっそう高まり、確かな学力の向上が今まで以上に強く求められるようになっていきます。

本報告は、平成28年4月に小学校6年生・中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の岸和田市における結果の概要、課題・改善のポイントの概要をお知らせするものです。

本市では、児童生徒の学力や学習状況における課題を把握し、確かな学力向上の取組みに役立てるといふ本調査のねらいを踏まえ、今後さらに実効性のある取組みの充実、さらには全ての子どもたちが学ぶ楽しさ・できる喜びを実感できる「わかる授業」の充実を図ってまいります。

今後、児童生徒へのアンケート（生活習慣や学習環境に関する調査）結果から、各ご家庭で参考にしていただきたいことをまとめた保護者向けリーフレットを作成し、小中学校の全児童生徒の保護者に配布します。

ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年 10月 岸和田市教育委員会

1. 全国学力・学習状況調査とは

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上。
- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

- 平成28年4月19日（火）

(3) 調査の対象

- 小学校第6学年（本市参加児童数 1,872名）
 - 中学校第3学年（本市参加生徒数 1,906名）
- ※原則として、国・公・私立学校の全児童生徒対象です。

(4) 調査内容

- 教科に関する調査〔国語（小中）、算数（小）、数学（中）〕
 - ・「調査A」……主として「知識」に関する調査
 - ・「調査B」……主として「活用」に関する調査
- 学習や生活の状況、学校の取り組みに関する調査
 - ・「児童質問紙」（小学校）
 - ・「生徒質問紙」（中学校）
 - ・「学校質問紙」（各小中学校）

(5) 調査結果について

- 都道府県ごとの公立学校全体の状況等

(6) その他

- 平成19年度から実施されています。

本調査は学習指導要領に示す内容がどの程度身についているかを把握するものであり、対象になる学年や教科、出題範囲が限られていることから、調査結果は、学力の一部、そして学校における教育活動の一側面を示すものです。

また、本調査は、単なる学力調査とは異なり、生活習慣や、学習環境と学力との関係も分析し、改善につなげるものです。

2. 本市の調査結果概要

(1) 本市全体の状況

① 学力調査結果について

小学校については、国語・算数のA B両区分において改善が見られず、全国との差が拡大しました。

中学校についても、国語・数学のA B両区分において改善が見られず、全国との差が拡大しました。

➤ 平均正答率の全国との差

小学校：最小－5.5 ポイント 最大－8.9 ポイント

中学校：最小－5.6 ポイント 最大－8.8 ポイント

➤ 無解答率の全国との差

小学校：国語・算数 AB 両区分において、前年度よりも差が拡大しました。

中学校：国語・数学 AB 両区分において、前年度よりも差が拡大しました。

② 学習状況調査結果について

➤ 児童生徒の規範意識に課題

「学校のきまりを守っている」と回答した児童生徒は、小学校では前年度よりも改善しているものの全国平均に比べて10%以上低く、中学校では前年度よりも下降し、全国平均との差が拡大していることから、学校のきまりを守るといった規範意識に課題があります。

➤ テレビゲームや携帯電話・スマートフォンの使用率に課題

「1日あたり2時間以上テレビゲームをする」「1日あたり2時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする」と回答した児童生徒の割合が増加傾向にあり、全国平均に比べても高く、課題があります。

➤ 家庭で自主的に学習することに課題

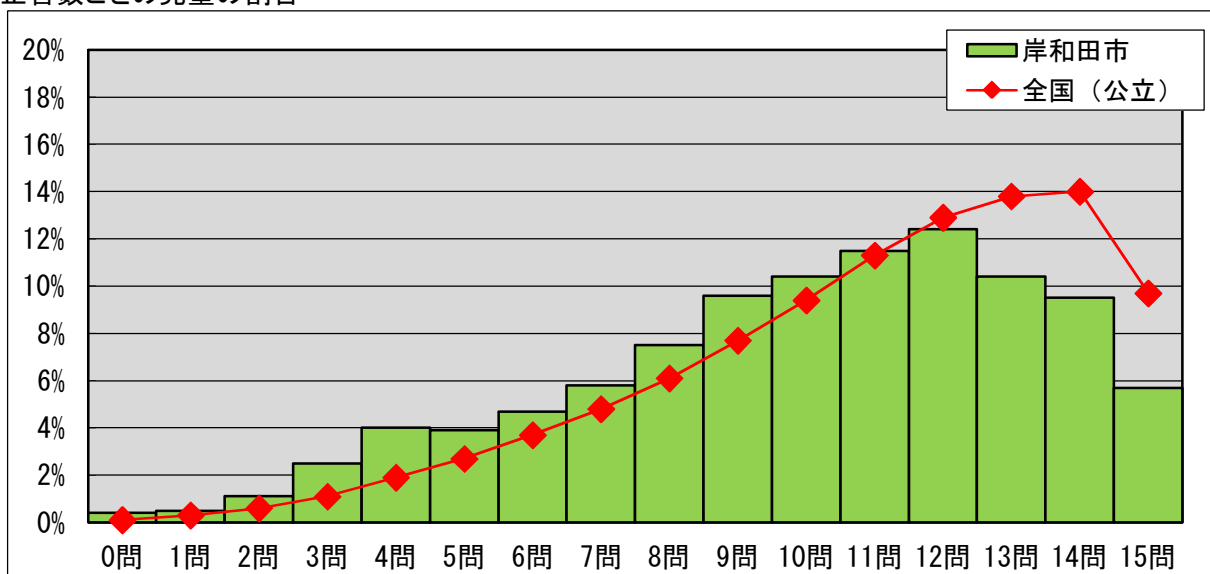
学校で与えられた宿題は、多くの児童生徒が取り組むことができますが、授業の予習や復習など、自主的に学習に取り組む児童生徒は少なく、課題があります。

(2) 各教科の結果

平成28年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概況【小学校国語】

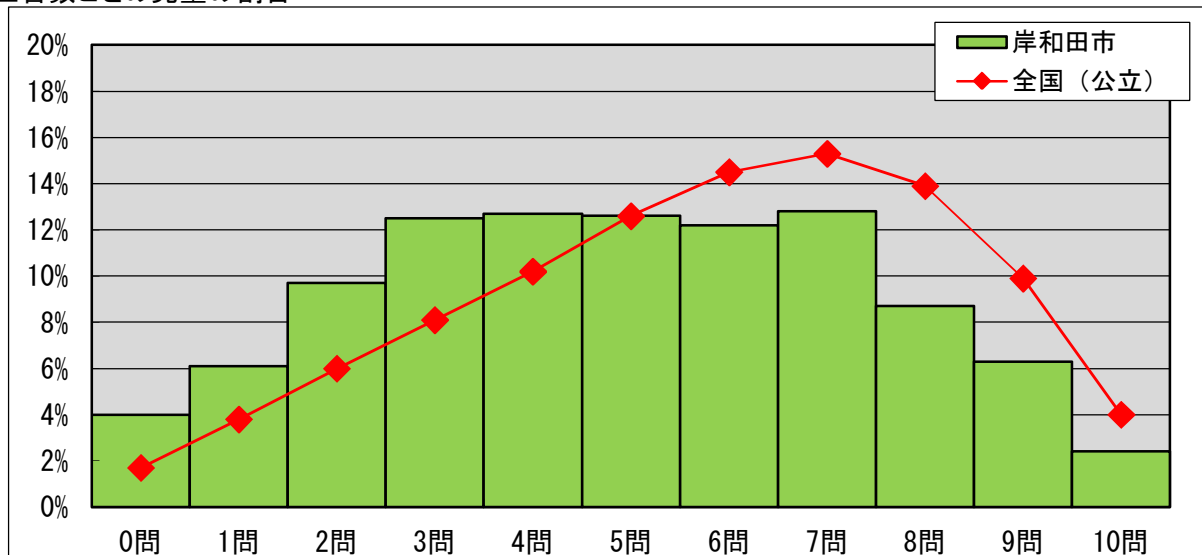
国語A [主として知識]	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,869	9.9/15	66.3	8.0
大阪府(公立)	71,918	10.7/15	71.3	5.4
全国(公立)	1,021,905	10.9/15	72.9	5.3

正答数ごとの児童の割合



国語B [主として活用]	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,870	4.9/10	48.9	9.0
大阪府(公立)	71,895	5.5/10	55.4	5.6
全国(公立)	1,021,635	5.8/10	57.8	4.6

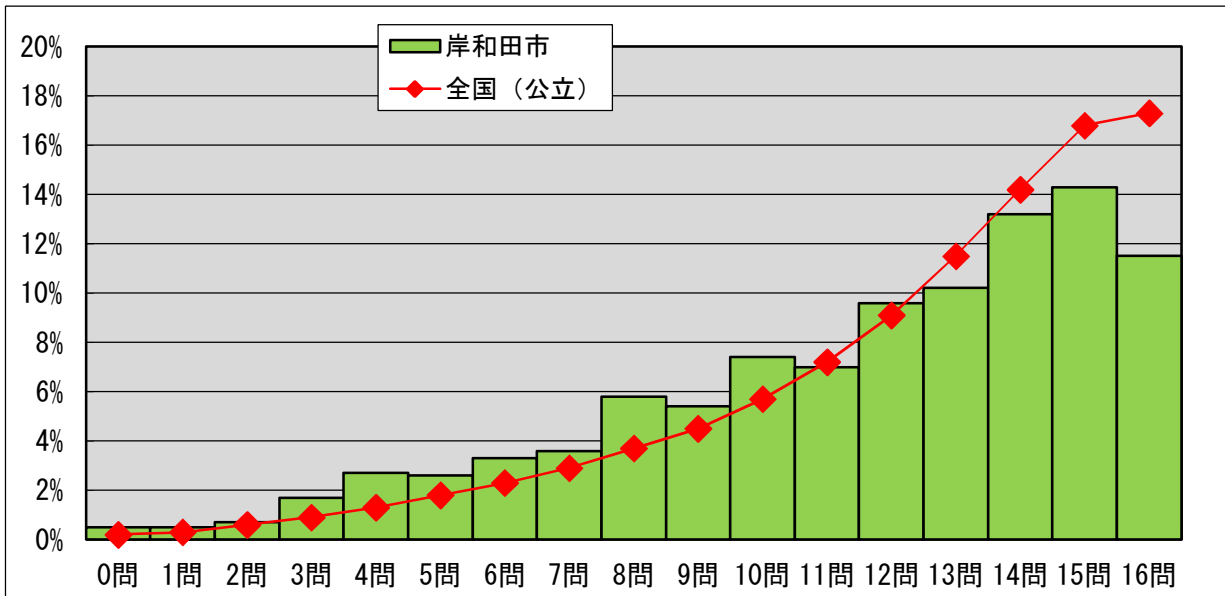
正答数ごとの児童の割合



平成28年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概況【小学校算数】

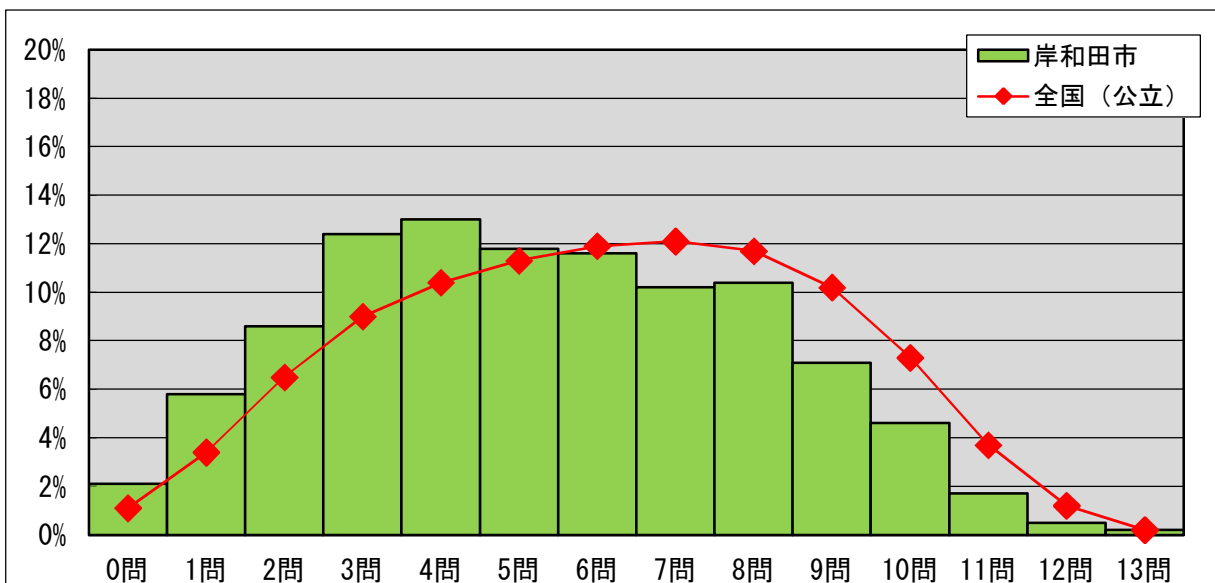
算数A [主として知識]	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,869	11.5/16	72.1	3.3
大阪府(公立)	71,916	12.3/16	76.9	1.9
全国(公立)	1,021,910	12.4/16	77.6	1.8

正答数ごとの児童の割合



算数B [主として活用]	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,872	5.3/13	40.9	11.5
大阪府(公立)	71,889	6.0/13	45.8	7.8
全国(公立)	1,021,637	6.1/13	47.2	7.4

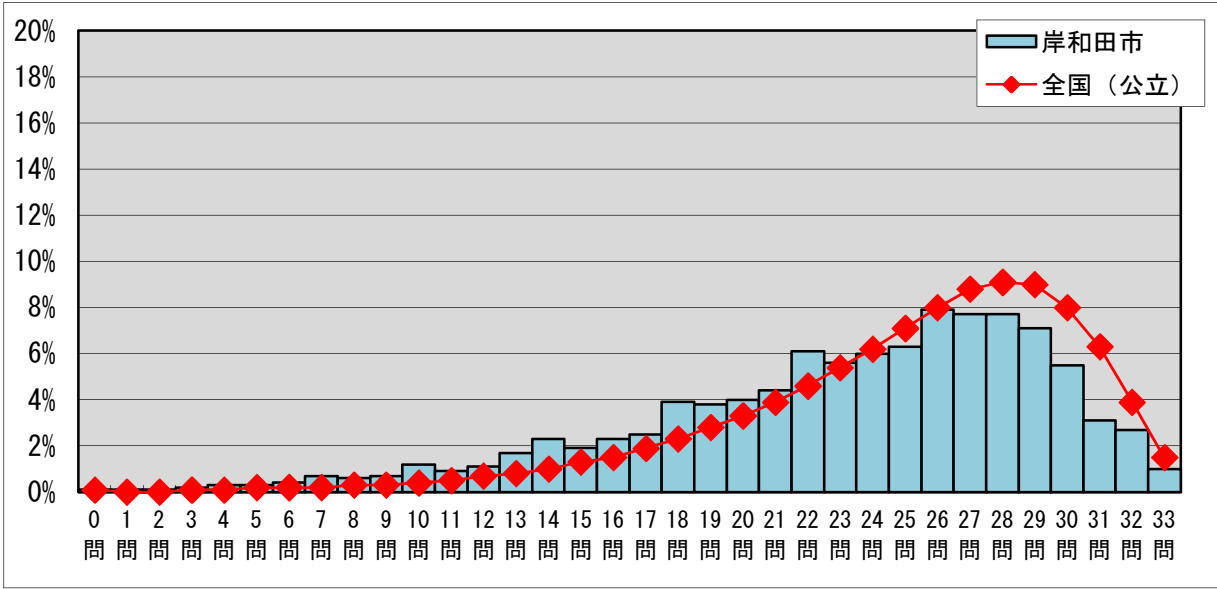
正答数ごとの児童の割合



平成28年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概況【中学校国語】

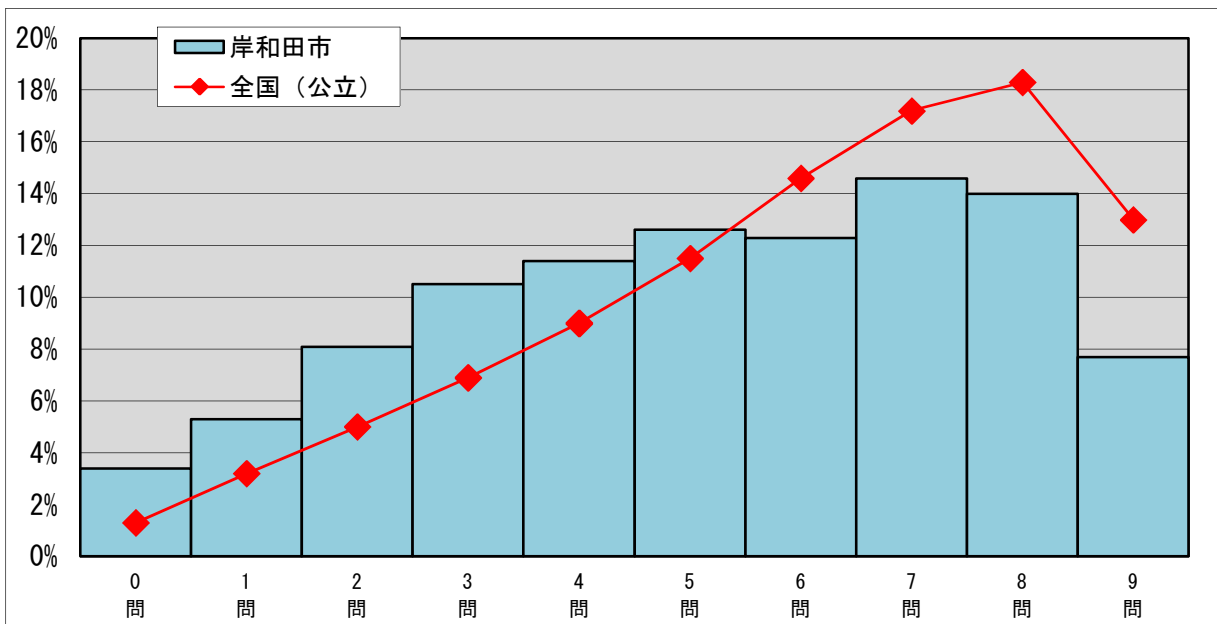
国語A [主として知識]	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,903	23.1/33	70.0	3.2
大阪府(公立)	70,225	24.3/33	73.5	2.3
全国(公立)	996,188	25.0/33	75.6	2.0

正答数ごとの生徒の割合



国語B [主として活用]	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,906	5.2/9	57.7	8.3
大阪府(公立)	70,335	5.7/9	63.3	5.4
全国(公立)	996,365	6.0/9	66.5	4.4

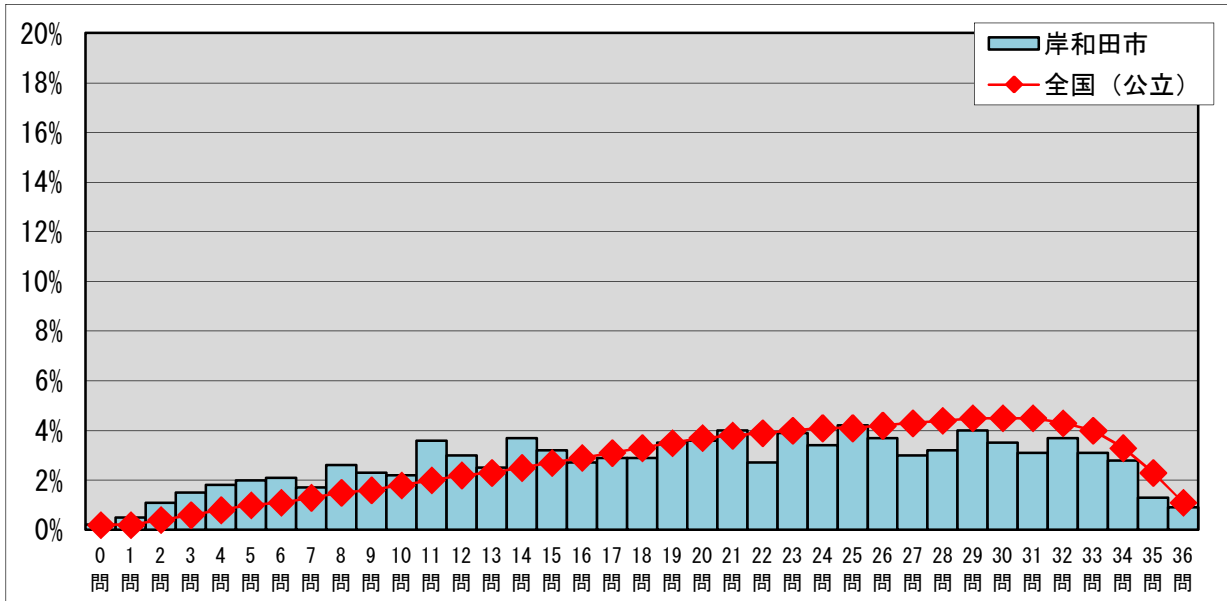
正答数ごとの生徒の割合



平成28年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概況【中学校数学】

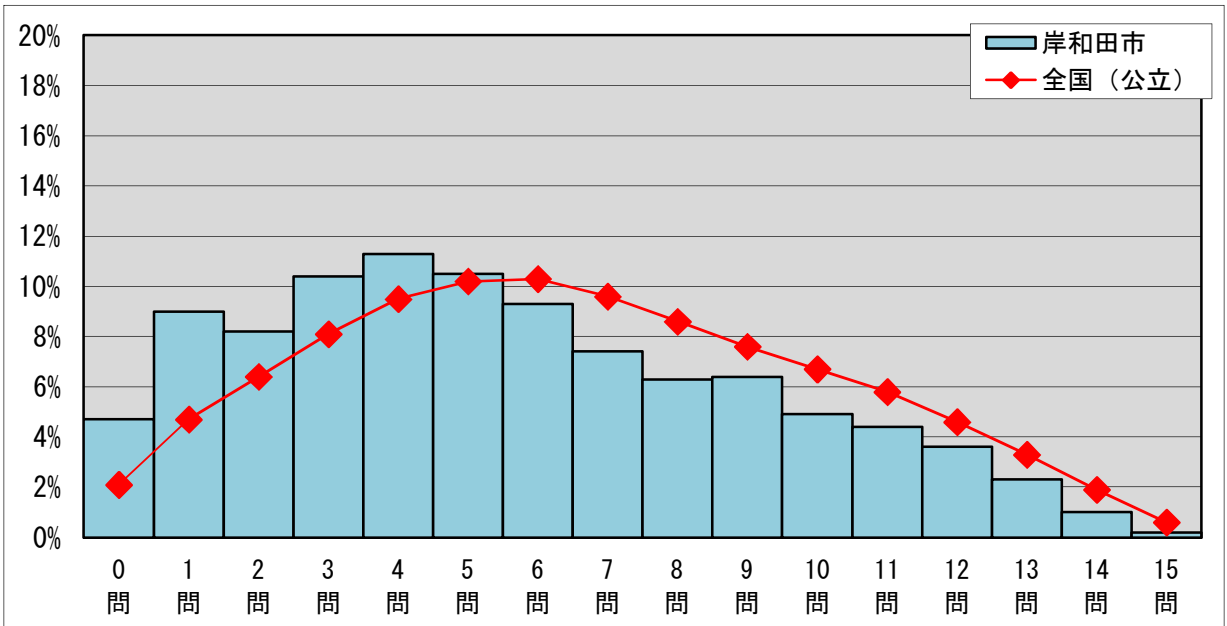
数学A [主として知識]	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,906	20.0/36	55.5	10.4
大阪府(公立)	70,378	22.2/36	61.7	7.0
全国(公立)	996,502	22.4/36	62.2	6.3

正答数ごとの生徒の割合



数学B [主として活用]	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	無解答率(%)
岸和田市	1,902	5.6/15	37.2	21.0
大阪府(公立)	70,421	6.5/15	43.1	16.0
全国(公立)	996,578	6.6/15	44.1	14.7

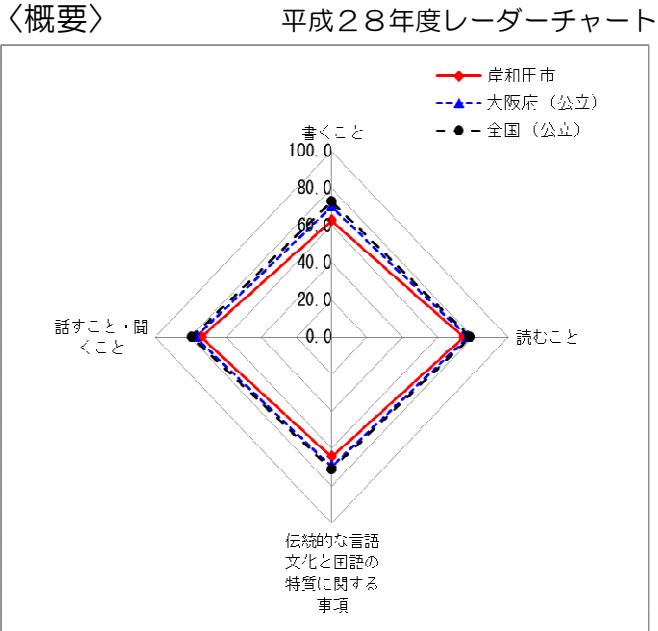
正答数ごとの生徒の割合



小学校国語

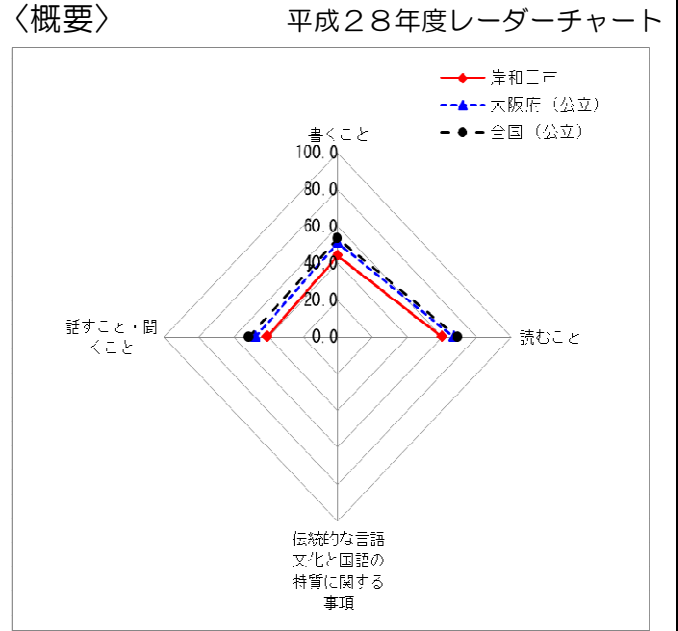
国語 A

主に知識に関する問題：15問



国語 B

主に活用に関する問題：10問



【領域別】

(話すこと・聞くこと)

・収集した情報をどのように関係づけて話し合っているかをとらえる問題にやや課題がある。

(書くこと)

・書き手の表現に対する助言について考えたり、目的や意図に応じて書く事柄を整理する問題に課題がある。

(読むこと)

・どの叙述に基づいて読み取ったかを考える問題にやや課題がある。

(言語)

・ローマ字の読み書きは無解答率が高く課題がある。特にローマ字を書くことには大きな課題がある。

【領域別】

(話すこと・聞くこと)

・話の展開に沿って、どのような質問をしたのかをとらえたり、その意図を考えたりする問題に課題がある。

(書くこと)

・図表やグラフを用いて、自分の考えを書く問題に課題がある。

(読むこと)

・自分の考えを明確にしながら読み、それを条件に合わせて書く問題に課題がある。

【改善のポイント】

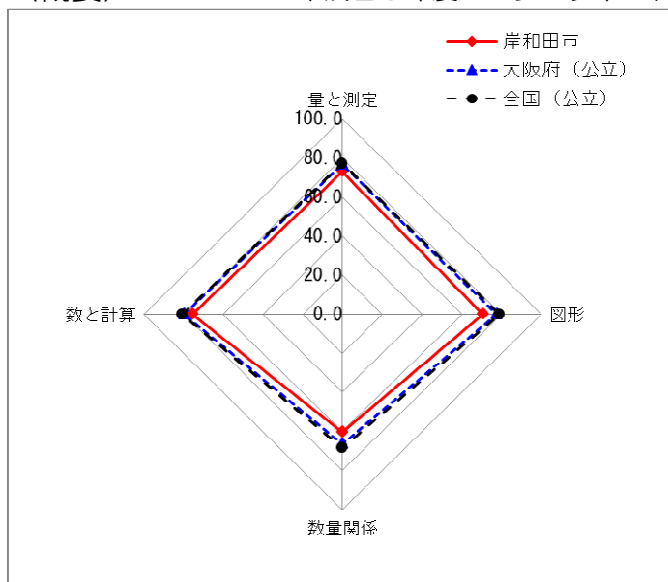
- ・目的や意図に応じて、収集した知識や情報を関係づけて話し合ったり、質問し合ったりする学習。
- ・目的や意図に応じて、表現をよりよくするために助言し合ったり、図表やグラフを用いて自分の考えを書く学習。
- ・登場人物の性格や気持ちの変化などを、複数の叙述を基に考えたり、自分の考えを明確にしながら読みだりする学習。
- ・ローマ字の規則性をおさえたり、さまざまな場面でローマ字を読みだり書いたりする学習。

小学校算数

算数 A

主に知識に関する問題：16問

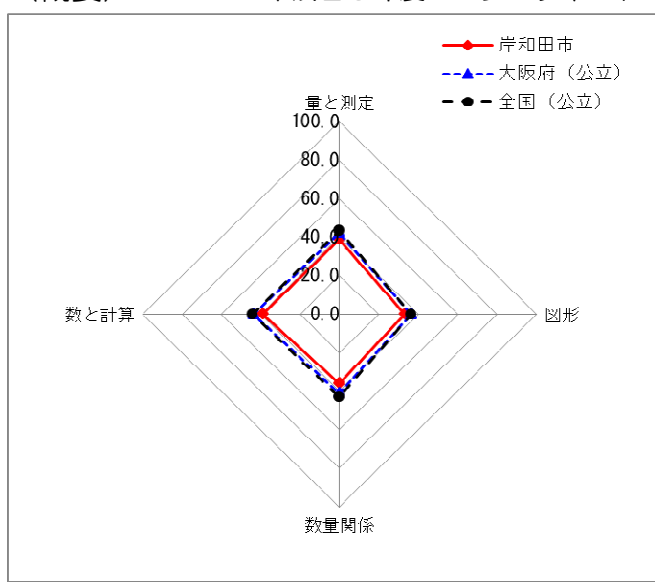
〈概要〉 平成28年度レーダーチャート



算数 B

主に活用に関する問題：13問

〈概要〉 平成28年度レーダーチャート



【領域別】

（数と計算）

- ・数の大小関係やそれを表す不等号、繰り下がりのある減法に計算は、ほとんどの児童ができています。
- ・小数の除法の計算や、除法の性質の理解に課題がある。また、示された場面を適切に読み取り、場面を式に表すことに課題がある。

（量と測定）

- ・単位量当たりの大きさを求める問題にやや課題がある。

（図形）

- ・直方体の面と面の位置関係を考える問題や、図形の構成要素に着目して、図形を構成する問題に課題がある。

（数量関係）

- ・1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係の理解に課題がある。

【領域別】

（数と計算）

- ・与えられた条件を基にきまりを見つけ、数字をあてはめる問題は概ねできているが、問題文を理解し、答えを導く方法や理由を記述するというところに課題がある。

（量と測定）

- ・示された説明を解釈し、用いられているその考えを別の場面で適用して、それを記述で説明することに課題がある。

（図形）

- ・示された図形の構成要素に着目し、論理的に考察することにやや課題がある。

（数量関係）

- ・日常生活の問題の解決に向けて、必要な情報を収集し、目的に応じて表やグラフを読み取ったり、事象を数量的に捉え、式に表したりすることに課題がある。

【改善のポイント】

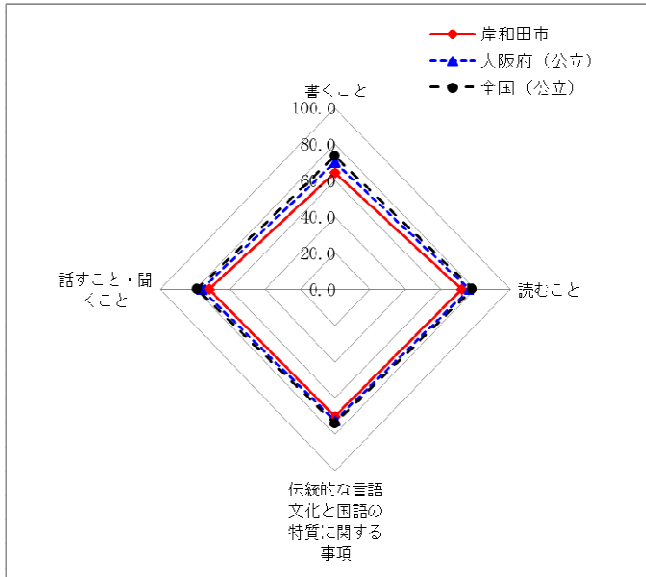
- ・与えられた情報を読み取り、場面を式に表す学習。
- ・小数の除法の計算や、除法と被除数の性質について考える学習。
- ・図形の構成要素に着目して図形を構成したり、直方体における面と面の位置関係についての学習。
- ・問題解決のために、示された資料から必要な情報を判断することができるようにする学習。

中学校国語

国語 A

主に知識に関する問題：33問

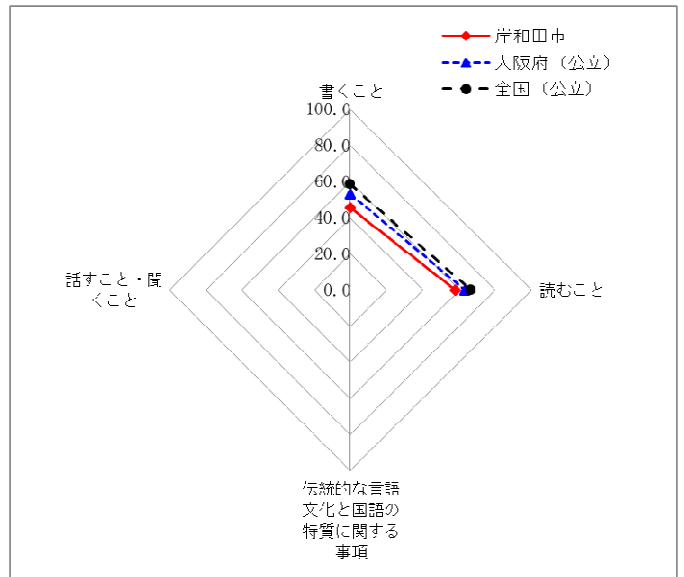
〈概要〉 平成28年度レーダーチャート



国語 B

主に活用に関する問題：9問

〈概要〉 平成28年度レーダーチャート



【領域別】

(話すこと・聞くこと)

- ・話すこと・聞くことの目的について問う問題に課題がある。

(書くこと)

- ・根拠を明確にするなどして、効果的に伝達するために工夫して書く問題は、無解答率も高く、課題がある。

(読むこと)

- ・文章を論理的に読み取ることに、課題がある。

(言語)

- ・言語の使用法や、伝統的な言語に関して、課題がある。

【領域別】

(書くこと)

- ・多様な視点を複合的に組み合わせながら記述する問題は、無解答率も高く、課題がある。

(読むこと)

- ・理由や根拠を読み取る問題や、文章の構成を意識して読み深める問題に、課題がある。

【改善のポイント】

- ・文章を論理的に読み取り、それに対する自分の考えを書いて表現する学習。
- ・さまざまな条件のもとに記述する学習。
- ・言語活動が充実した学習。
- ・自分の考えについて、理由や根拠を明確にして表現する学習。

中学校数学

数学 A

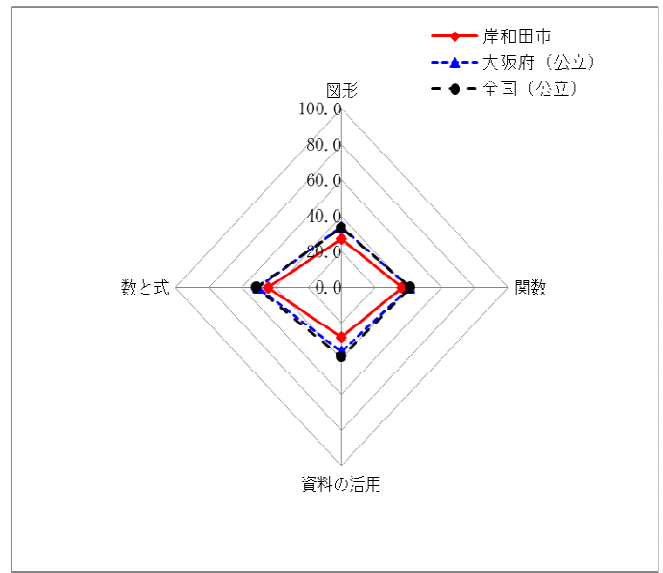
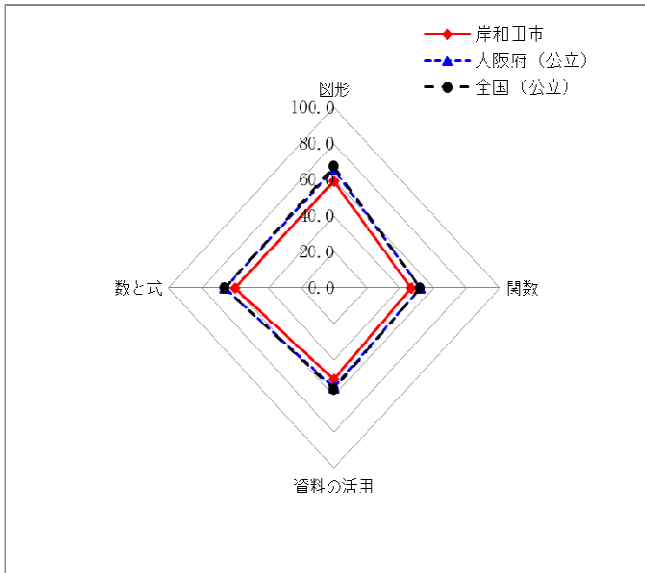
数学 B

主に知識に関する問題：36問

主に活用に関する問題：15問

〈概要〉 平成28年度レーダーチャート

〈概要〉 平成28年度レーダーチャート



【領域別】

(数と式)

- ・正の数と負の数の加法の計算は概ねできている。
- ・具体的な場面における数量の関係を捉えることに課題がある。

(図形)

- ・図形の性質を記号を用いて表すことに課題がある。

(関数)

- ・具体的な事象における1次関数の関係を式に表すことに課題がある。

(資料の活用)

- ・資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。

【領域別】

(数と式)

- ・事象が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(図形)

- ・付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

(関数)

- ・グラフの傾きを事象に即して解釈することは概ねできている。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

(資料の活用)

- ・与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することに課題がある。

【改善のポイント】

- ・図形の性質を記号で表したり、記号で表した関係を説明したりする学習。
- ・目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読みとる学習。
- ・図形の基本的な性質をもとに、付加された条件の下で、実際に作図して確かめる学習。
- ・表やグラフ、資料の情報から、傾向を読み取り、数学的に説明する学習。

(3) 生活習慣や学習環境に関する調査の結果

それぞれの質問に、「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた児童生徒の割合（単位は%）

主な項目	小学校		中学校	
	岸和田市	全国	岸和田市	全国
自分にはよいところがある	68.7 (67.8)	76.3	56.0 (64.8)	69.3
将来の夢や目標を持っている	82.5 (84.3)	85.3	69.4 (72.6)	71.1
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	73.1 (73.7)	76.1	67.5 (67.5)	69.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	94.9 (94.5)	96.6	91.9 (91.1)	93.6
学校に行くのは楽しい	84.5 (84.6)	86.3	78.2 (80.7)	81.4
学校のきまりを守っている	79.9 (78.8)	91.5	91.2 (92.5)	94.7
朝食を毎日食べている	91.1 (91.5)	95.5	88.7 (88.8)	93.3
今住んでいる地域の行事に参加していますか	63.2 (67.2)	67.9	55.0 (49.3)	45.2
1日あたり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見る	67.1 (68.9)	57.1	58.9 (63.7)	48.7
1日あたり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲームを含む)をする	42.5 (35.8)	29.7	49.6 (44.6)	34.9
1日あたり2時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする	18.2 (16.0)	10.4	46.0 (43.9)	30.1
家で自分で計画を立てて勉強をしている	44.3 (42.9)	62.2	45.2 (47.4)	48.4
家で学校の宿題をしている	94.0 (96.9)	97.0	80.9 (84.2)	90.1
家で学校の授業の予習をしている	27.4 (30.8)	43.3	28.8 (30.9)	34.2
家で学校の授業の復習をしている	32.0 (34.8)	55.2	36.5 (41.2)	51.0
読書が好き	66.4 (65.3)	74.6	60.0 (65.7)	69.9
国語の授業の内容はよくわかりますか	72.7 (75.3)	80.7	69.1 (77.6)	74.1
算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか	73.5 (72.3)	80.2	68.6 (72.0)	69.4
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	58.0 (57.3)	54.8	68.3 (65.8)	64.4

上段の数字：平成28年度の割合（児童・生徒質問紙調査 全校対象）
下段の数字：平成27年度の割合（児童・生徒質問紙調査 全校対象）

3. 改善策について

自学自習力や学習意欲を高め、児童生徒の学力を向上させるためには、学校・保護者・地域が互いに理解・協力し合い、一体となって取組みを進めていくことが大切です。中でも、学校において日々営まれる授業は、児童生徒に確かな学力を育む場であり、授業の充実が学力向上には欠かせません。そのため、本市では、かねてから教員の指導力の向上を図るとともに、各学校が一丸となって取り組む校内研究の推進に努めているところですが、児童生徒が育まれる日々の授業の充実に向け、あらためて全ての教員が自らの授業を見つめ直し、目の前の子どもたちにとって確かな学力がつく授業とはどのような授業であるかを常に問うていかなければなりません。このことを踏まえ、主に次年度以降、以下のような取組みを重点的に行い、児童生徒の学力向上をめざしてまいります。

1. 授業改善の推進

- ・子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、これまで「学力向上アドバイザー」を各学校へ派遣し、授業研究・校内研究の充実を図ってきましたが、平成29年度より、授業改善の取組みの強力な推進に特化した「授業改善アドバイザー」（仮称）を派遣します。「授業改善アドバイザー」は、各学校において直接授業を参観し、児童生徒に確かな学力を育む授業のあり方について、各教員に指導助言を行うことを通して、各学校における授業改善の充実と推進を図ります。
- ・各学校においては、平成27年度の岸和田市教育フォーラムにおいて打ち出した、「みんなで」「同じ方向を向いて」「最後までやりきる」という考え方で、さまざまな取組みを進めていきます。授業改善の取組みも、このことを大切にしながら、アドバイザーの指導助言を日々の授業づくりに生かすとともに、研究授業を基盤にした校内研究のさらなる充実を、全教員でめざしていきます。
- ・各学校の取組みを、校内だけでなく校外に広く発信することで、相互に影響を及ぼし合い、取組みのさらなる充実が期待できます。そのような場として、研究発表会等の積極的な開催を推奨します。

2. 自学自習力の育成

- ・平成28年度より、各校の実状に合わせた「自学ノート」の取組みの検討・実施が始まっていますが、平成29年度より全小中学校で完全実施し、家庭学習の充実を図ります。

3. 校種間連携教育の充実

- ・かねてから行っている幼小中連携教育の充実を図るために、それぞれの校区において、学力向上をめざすための焦点化した取組みを協議・実践します。そのための中学校別学力向上合同推進会議を年に一回必ず開催するとともに、中学校区ごとに、年に複数回の定例会を開催します。

4. 保護者・地域との一体となった取組み

- ・岸和田市の全国学力・学習状況調査結果の概要を、岸和田市Webサイトに公開します。
- ・学校・保護者・地域が一体となって子どもたちの学力向上をめざすために、保護者向けリーフレット「平成28年度版 岸和田の子どもたちに確かな学力を！」を作成し、小中学校の全児童生徒の保護者に配布します。また、岸和田市Webサイトにも公開し、地域へも協力を働きかけます。